

## 耕畜連携によるトウモロコシWCS生産利用体制の構築

**対象者 甲賀市飼料用稲 生産農家、利用農家、コントラクター組織**

### 【普及活動のねらい・対象】

甲賀地域では、古琵琶湖層と呼ばれる重粘土質の谷地田が多く、稲WCSや飼料用米などによる水稲活用の促進と、畜産農家においては飼料費低減対策の推進が大きな課題となっていました。

そこで、平成20年度から耕畜連携による稲WCS生産を当課が中心となって推進した結果、耕畜をつなぐコントラクター組織「うしのごちそう生産組合」（以下、「うしごち」）の設立とともに、平成21年度から稲WCSの生産が始まり、現在では、管内の稲WCSの取り組みは、作付面積3,588a、収穫ロール数2,644個（平成25年度実績）に拡大し、利用している畜産農家（7戸）の利用希望数量がほぼ確保できるまでになっています。

一方、畜産農家からは新たなニーズとして、栄養価が高く特に夏場の嗜好性も良好な濃厚飼料であるトウモロコシWCSの生産拡大が望まれていました。管内の濃厚自給飼料生産の現状に目を向けると、一部の畜産農家が自己農地で飼料作物を作付していましたが、労働時間の不足や収穫機の老朽化等で生産面積が伸び悩んでいました。しかし、うしごちの活動により収穫作業を任せられることができるようになり、現在では13haのうち2.8haがWCSにされるようになりましたが、まだまだすべてのニーズに応えるほどの生産はできていません。

そこで、こうした新たなニーズに応えるため、耕畜連携によるトウモロコシWCSの生産利用体制の確立をめざし、普及活動を展開しました。

### 【普及活動の経過】

#### 1. モデルケースの育成

まず、耕畜が連携することで、図1のようなトウモロコシWCS生産利用のモデルケースを確立しました。そして、単収、コストなどのデータを収集することで、今後のトウモロコシWCSの生産拡大につなげていくこととしました。

その後、平成26年分のトウモロコシWCS需要量を調査した結果、N牧場が夏季の育成牛を中心に60ロールの給与を希望されました。それに見合う生産面積を確保するため、うしごちの構成農家が各1カ所ほ場を提供し、1.5haの生産を開始しました。

#### 2. 適正なロール価格の設定

生産技術確立の一方で、今後の畜産農家への普及を図っていくうえで詰めておく必要がある事項として、ロールの価格があります。

そこで、甲賀市においては飼料用トウモロ

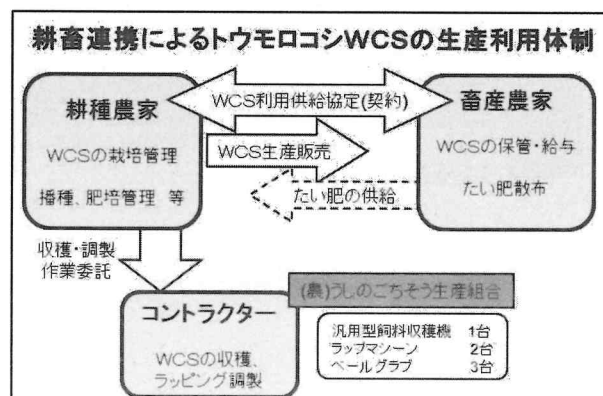


図1 耕畜連携によるWCS生産利用体制



写真1 K営農のトウモロコシ生育状況

コシの推進により水田利活用の促進と畜産振興につなげるため、飼料用トウモロコシを地域振興作物に位置づけ、産地交付金の上乗せを行うとともに、耕畜連携会議において関係者で検討を行い、飼料費をより低減していくためにも、今年度はロール単価を5,714円(税抜)に設定することを決定しました。

### 【普及活動の成果】

甲賀地域での飼料作物WCSの生産は、平成23年度にうしごちが汎用収穫機を導入したことをきっかけに始まりましたが、耕畜が連携する取り組みは試験的なものにとどまり、単収やコストなどのデータがありませんでした。

今回、新たなニーズに対応するため、耕畜連携で1.5haの本格的なトウモロコシWCSの生産を開始できました。そのうち、土質的には乾田が1.1ha、湿田が0.4haですが、乾田であるK営農のほ場は排水条件が良好であったため生育が順調で、目標値の7ロール(約3,000kg)/10aに迫る、6.6ロール(2,820kg)/10aの実績をあげることができました。

しかし、他の湿田の2ほ場では、播種の遅れ、排水処理や土壌改良が十分でない等の理由で、十分な生育が確保できませんでした。

なお、単収6.6ロール収穫できた場合の概算粗収益は、表1のように50,000円余りになると見込まれ、有望な転作作物として定着が期待されます。

今後飼料分析等を実施したあと、今までに明らかになった耕畜それぞれのメリットを整理し、耕畜連携会議において他の畜産農家や耕種農家にPRしていきたいと考えています。さらに安定した生産を確保するため、次年度に向けて適地適作の検討も含めたほ場条件の改善策を検討していきたいと考えています。

次年度に向けて当課は、引き続き関係機関やうしごちと連携して、耕畜連携によるトウモロコシWCSの生産利用の推進を図っていきます。(竹若)

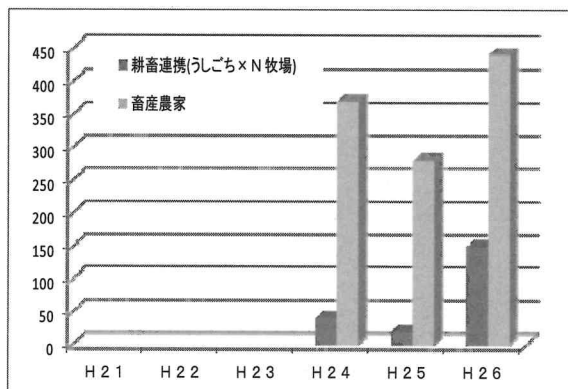


図2 甲賀地域における飼料作物WCS生産面積の推移(単位:ha)



写真2 汎用機によるトウモロコシ収穫作業

表1 耕畜連携トウモロコシWCSの収支計算

項目	金額	摘要
粗収入合計	95,730円(C)=(A)+(B)	
ロール販売収益	40,730円(A)	6.6ロール/10aで算出
助成金等	55,000円(B)	産地交付金等
経費合計	45,420円(F)=(D)+(E)	
うしごち作業委託料	28,420円(D)	6.6ロール/10aで算出
生産コスト(概算)	17,000円(E)	種苗費、人件費等
粗収益(概算)	50,310円(C)-(F)	